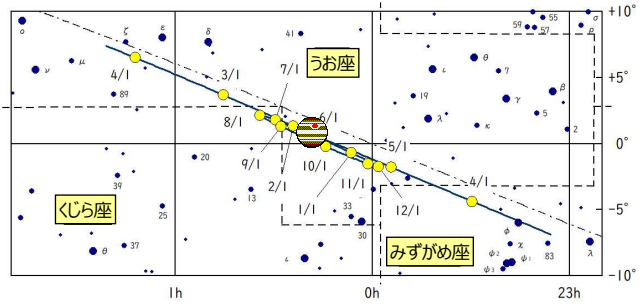


木星面近況（2022年6月）

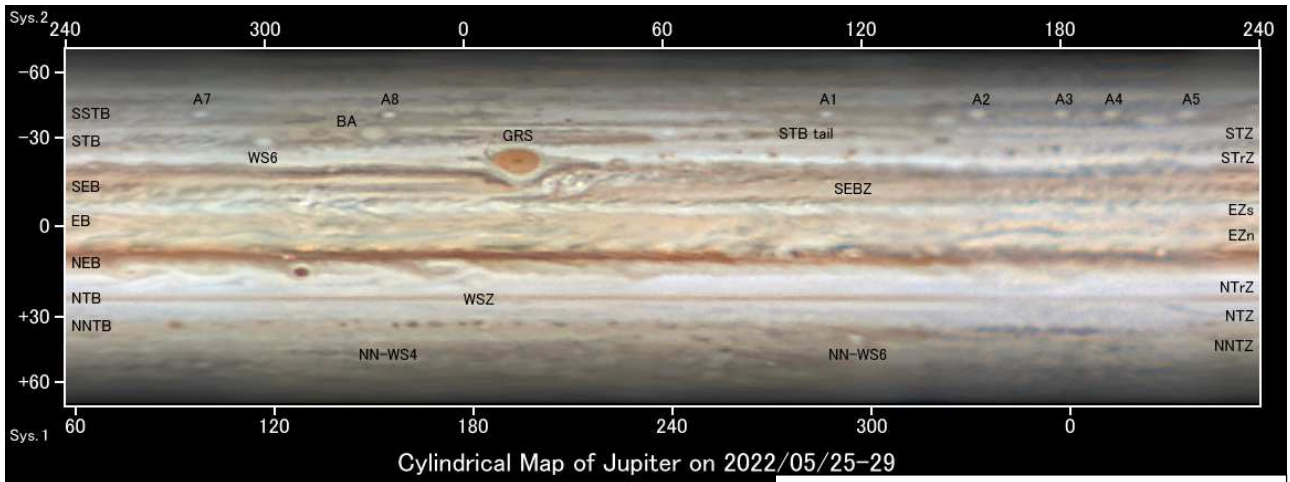
堀川 邦昭（Kuniaki Horikawa）

2022-23シーズン（2022-23 Apparition）

うお座	合	2022年	3月 5日
赤緯	0°	西矩	6月29日
高度	54°	衝	9月26日
視直径	49秒	東矩	12月22日
	合	2023年	4月11日



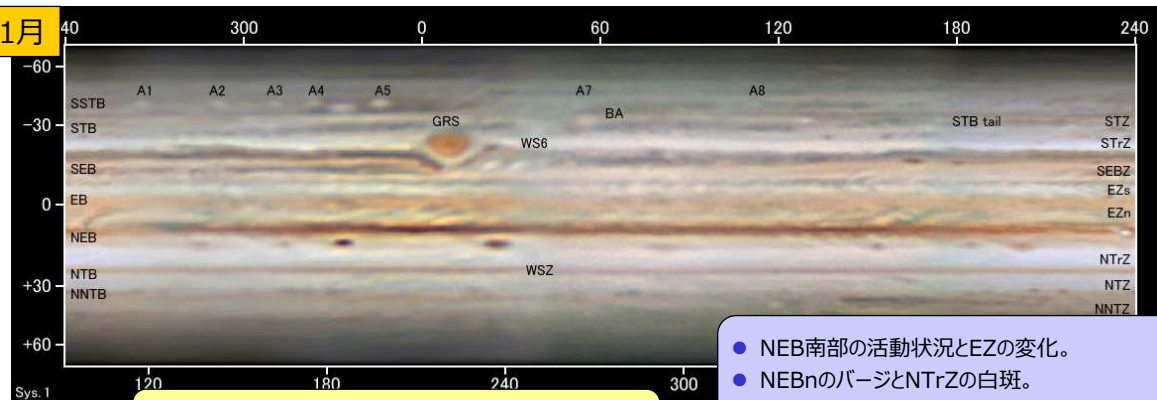
5/25～29の全面展開図



撮像: Christopher Go, Clyde Foster, Isao Miyazaki, Kunihiro Suzuki

前回例会からの変化

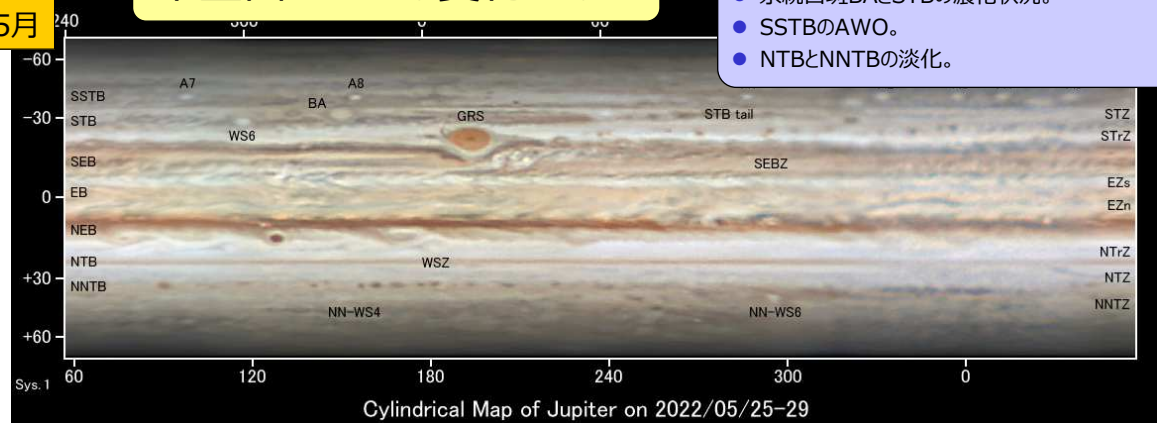
1月



木星面に大きな変化はない

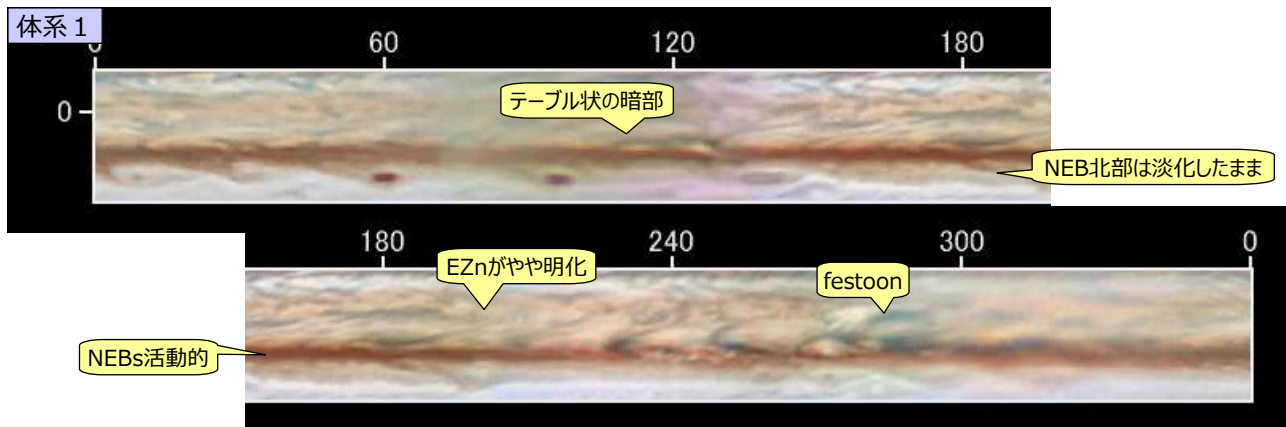
- NEB南部の活動状況とEZの変化。
- NEBnのバージとNTrZの白斑。
- 大赤斑の縮小とSEBの状況。
- 永続白斑BAとSTBの濃化状況。
- SSTBのAWO。
- NTBとNNTBの淡化。

5月

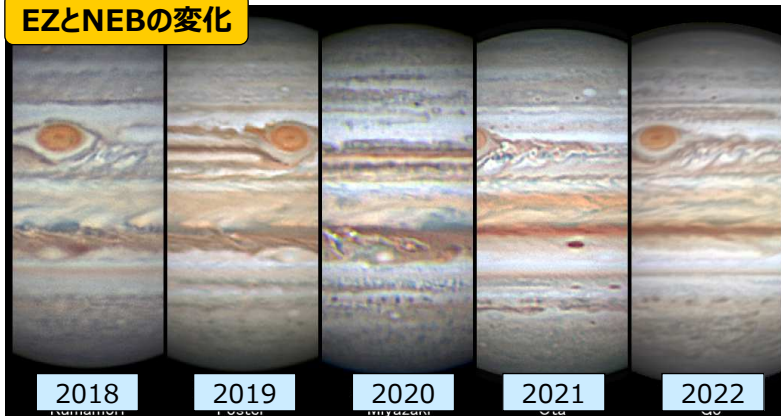


Cylindrical Map of Jupiter on 2022/05/25-29

NEB南部の活動状況とEZの変化

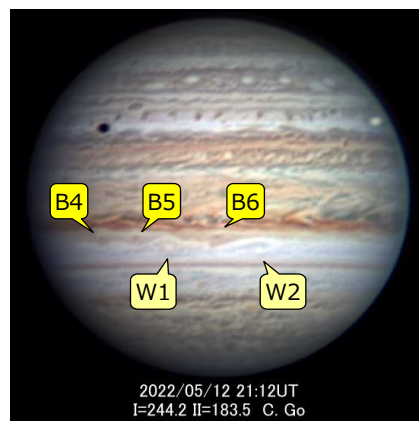
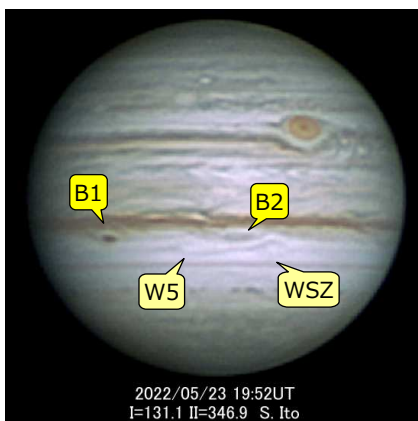
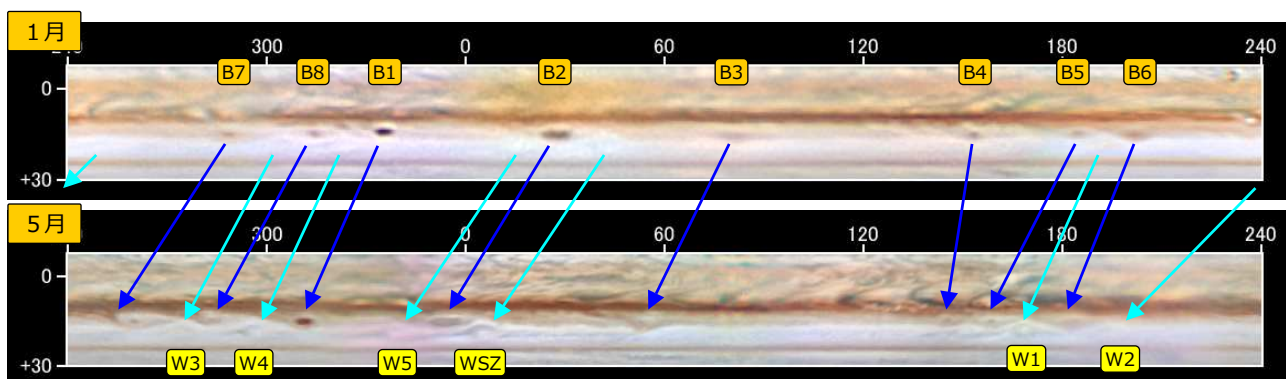


EZとNEBの変化



- NEB南部の活動は現在も続いている。当初のI=120°前後だけでなく、I=240°前後でも活動的な領域が見られる。
- ただし、活動は南部に限定されていて、NEB北部は淡化したまま。濃化復活には至っていない。
- NEB南縁に沿って白斑や小リフトが見られ、テーブル状の暗部や明瞭な festoon が復活した。
- 昨年、オレンジ色で薄暗かったEZnは明るくなり、2020年と同程度に戻った。

NEBnのバージとNTrZの白斑

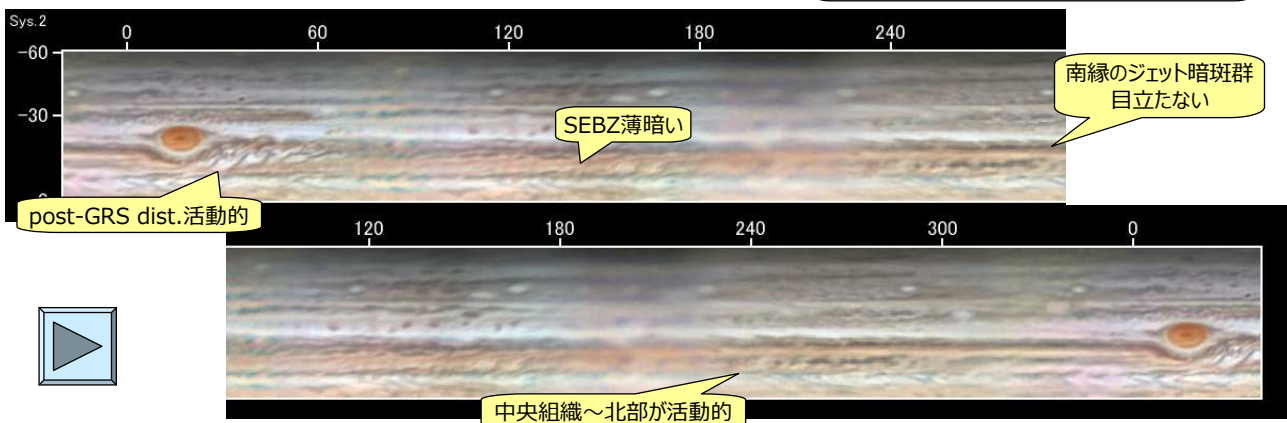


- NEBは南組織のみ濃く、北部は薄茶色で淡く、バージが外に飛び出て見える。条件が悪いと境界がにじんで太く見える。
- 8個のバージと6個の白斑はすべて残っている。バージはB1だけが濃く明瞭だが、他は淡化が進んでいる。白斑は比較的明瞭だが、明るいNTrZ中にあるため、捉えるには好シーイングと高解像度が必要。
- 長命なWSZは大赤斑北側のII=10°にあり明瞭。完全復活を遂げた。

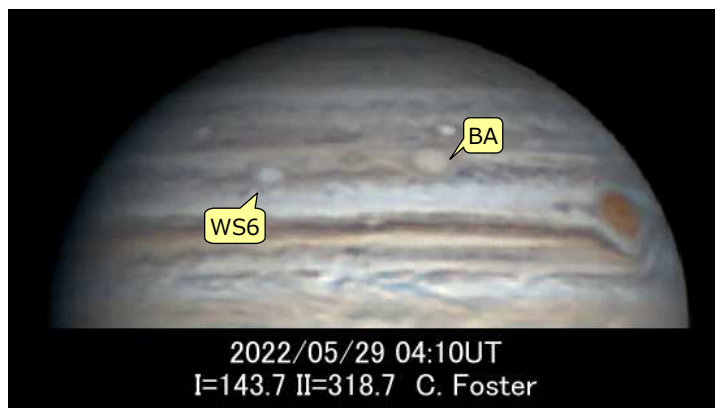
大赤斑の縮小とSEBの状況



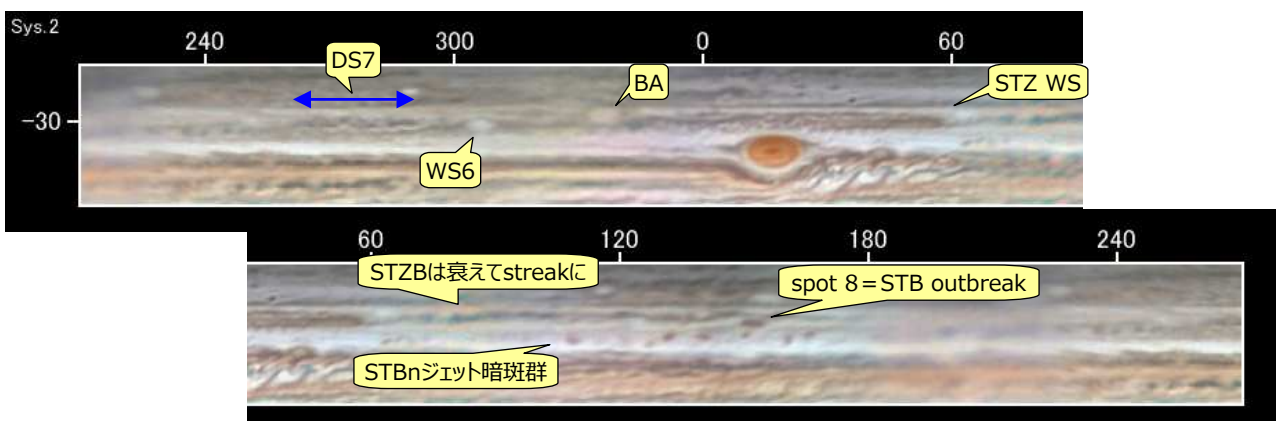
- 大赤斑はオレンジ色で明瞭。経度は $II=16^\circ$ で停滞中。長径は 11.9° で史上最小!
- 周辺に小規模な暗部があり、リング暗斑との会合も続いているようだが、大きなフレック活動はない。
- SEBも大きな変化ないが、中央組織がやや活動的でSEBZは薄暗くなった。また、post-GRS dist.が活動的。
- SEBsは濃く活動的だが、ジェットストリーム暗斑群は目立たなく、後退運動を追跡できるものは今のところない。



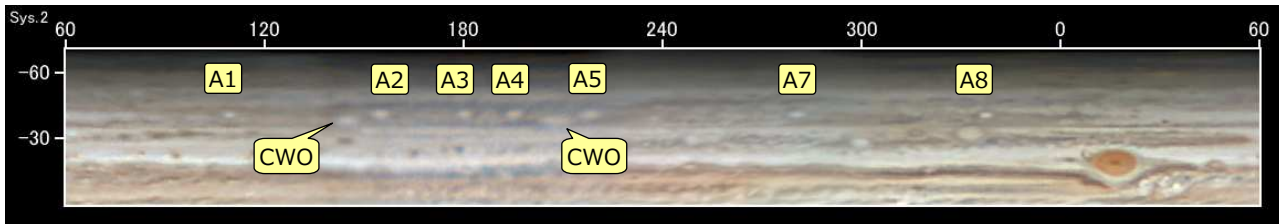
永続白斑BAとSTBの濃化状況



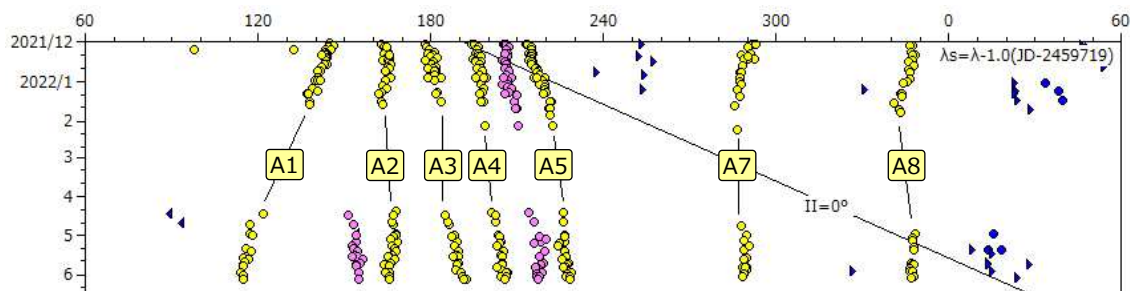
- 永続白斑BAは $II=335^\circ$ に位置、明るく明瞭。 30° 前方にはWS6、少し離れた。
- STBは $II=240\sim60^\circ$ の約半周で濃化。特にBA後方で濃い。DS7は伸長。
- 残り半周ではSTBnに沿ってジェットストリーム暗斑群が活動的。昨シーズンよりも暗斑が大きい。発生源はDS7と思われる。
- $II=215^\circ$ のSTBに暗斑 (spot 8)、昨年のSTB outbreakに由来。
- STB後端～spot 8間のSTBsにstreak、昨年のSTZBが淡化・縮小。



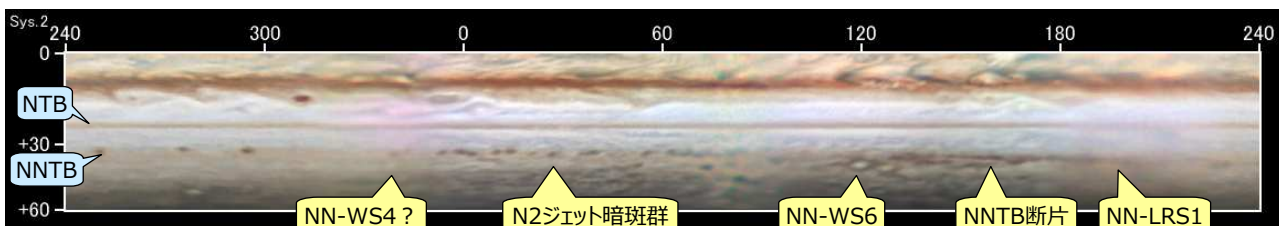
SSTBのAWO



- SSTBのAWOは7個で変わらず。
- 昨年、密集していたA1～A5のうち、A2～A5の4個 + CWOが相変わらずひと塊になっている。
- A1は加速してA2の50°前方に離れ、A2の直前にCWOが新たに形成された。
- SSTBは幅広く概ね二条にだが、A8～A1では中央が明るくなっている。



NTBとNNTBの淡化

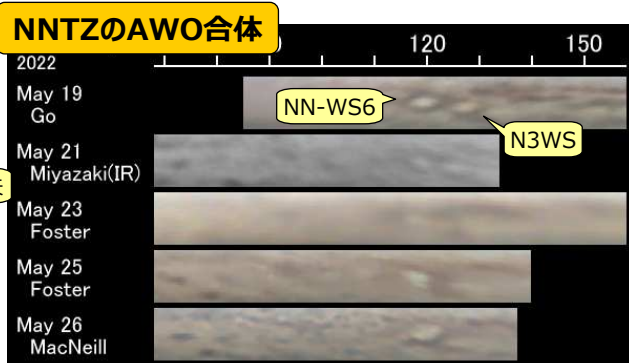


NTBの比較

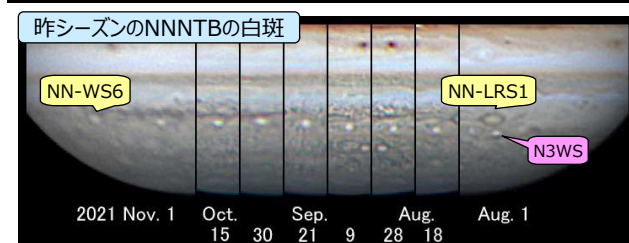


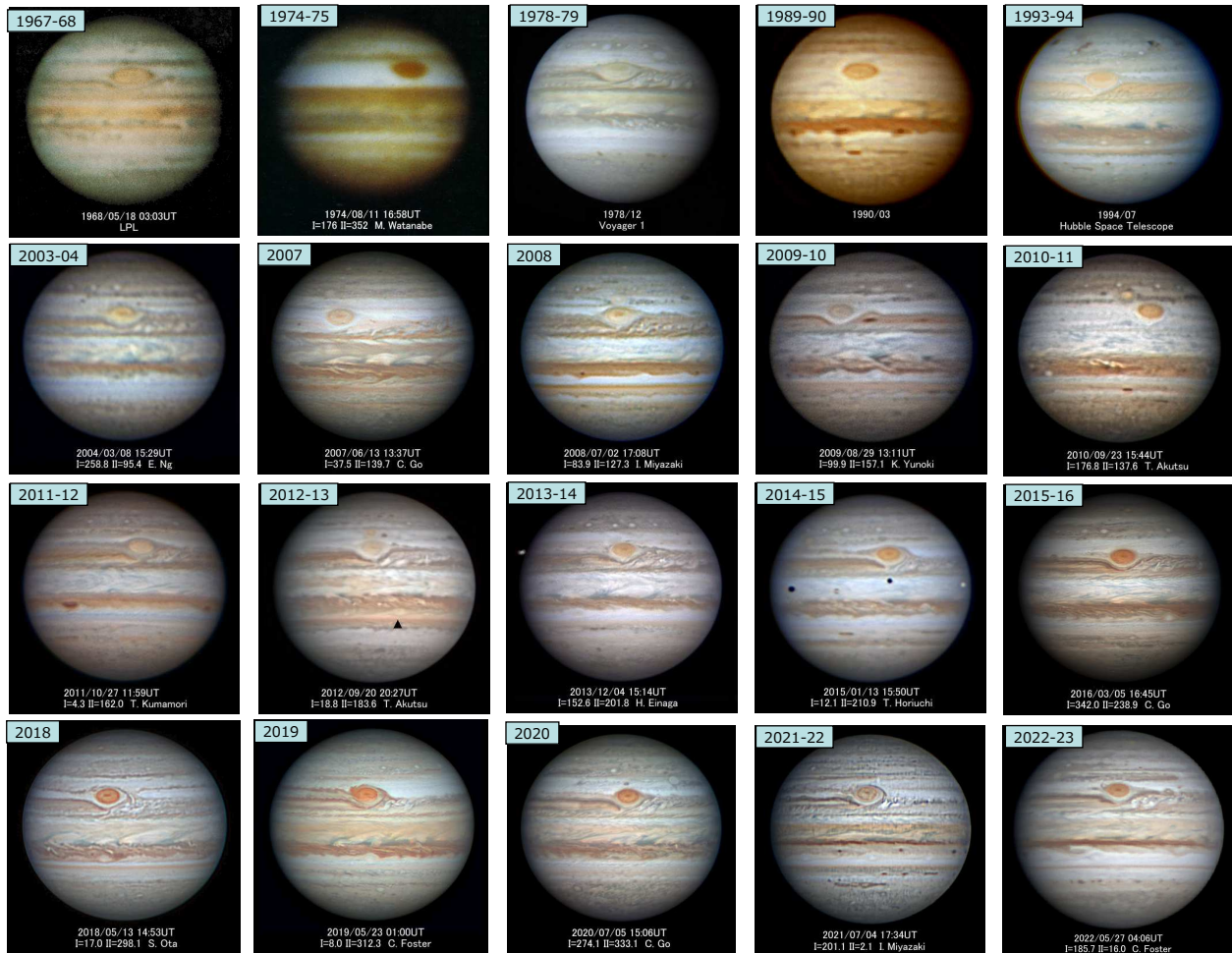
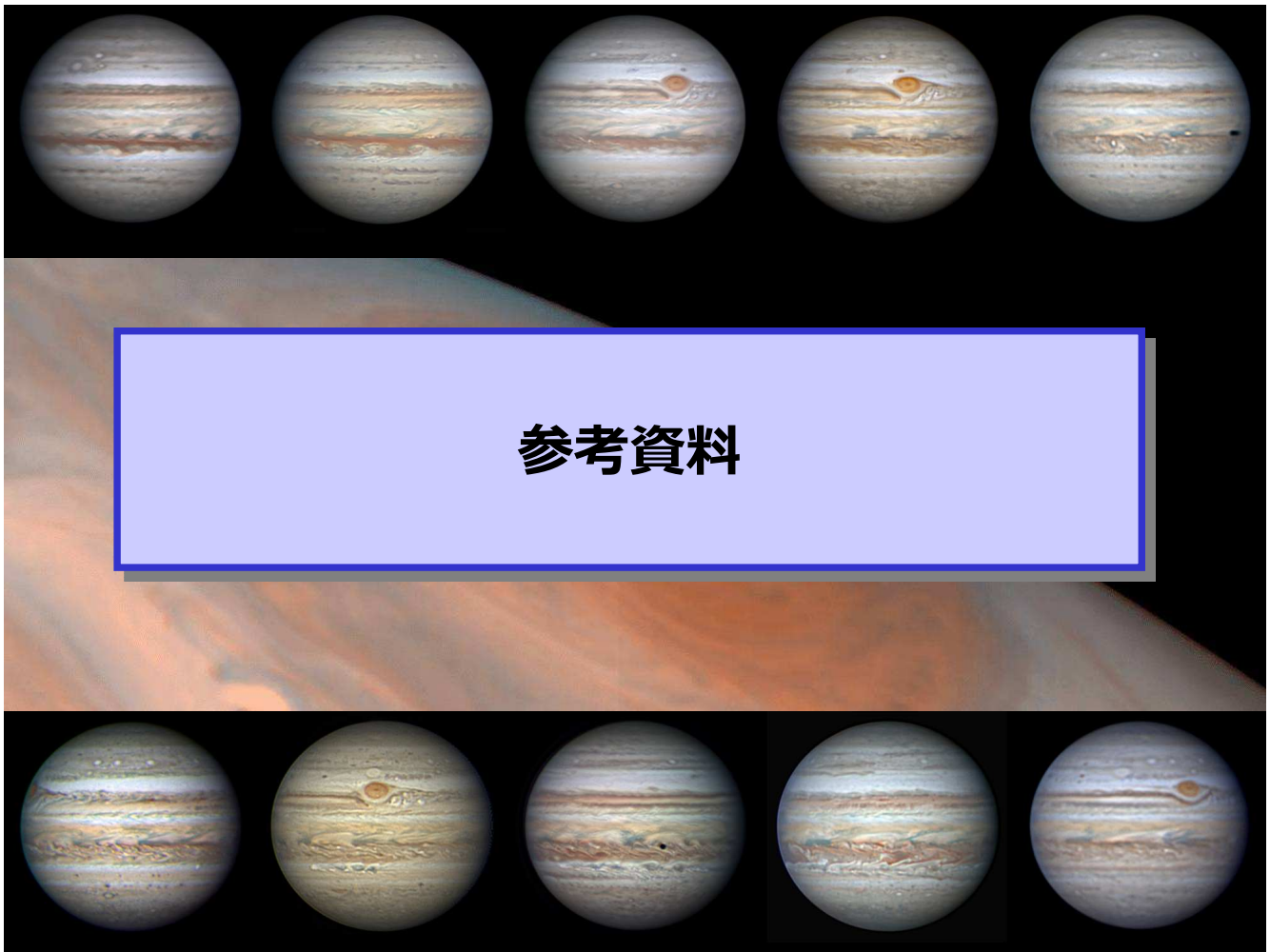
- NTBは淡化が進んだ。北組織は消失し、北緯25°に細いベルトが残るのみ。
- 昨シーズン復活しかけたNNTBも再び淡化。II=120～200°にベルトの断片が見られる他はほとんど消失。NNTBsのジェットストリーム暗斑群が活動的。
- NNTZのAWOはNN-WS6が明瞭。WS6は5月25日頃に別の白斑と合体。

NNTZのAWO合体

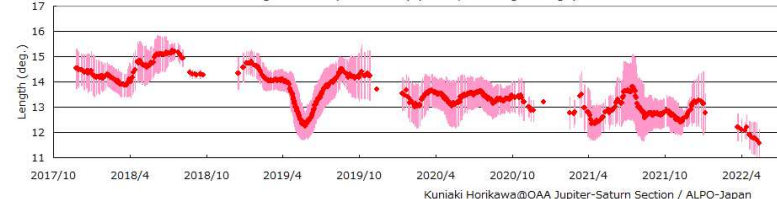
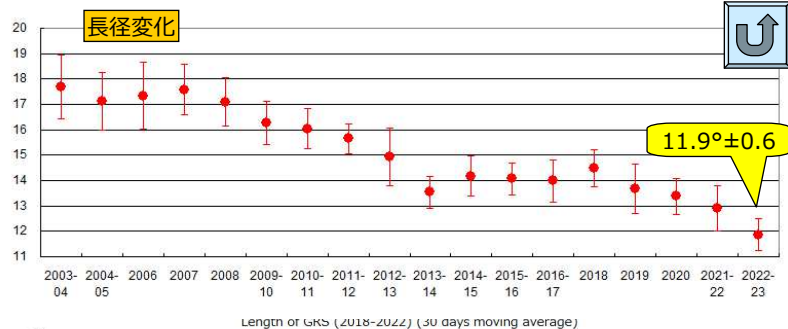
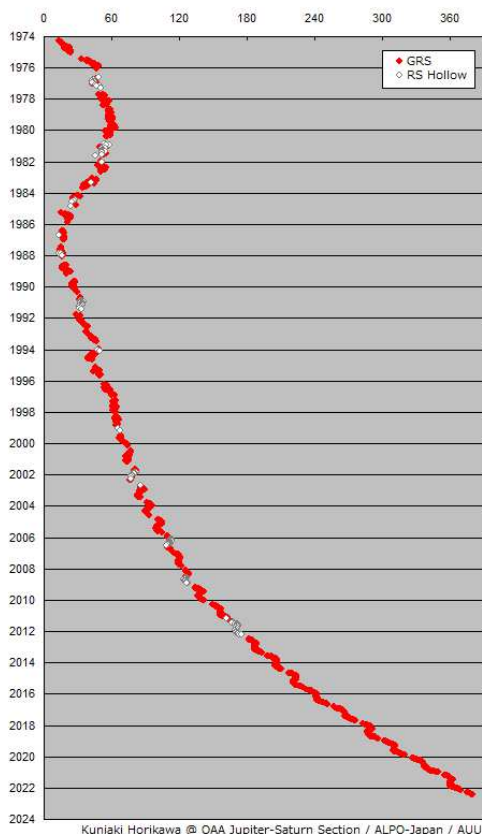


昨シーズンのNNTBの白斑

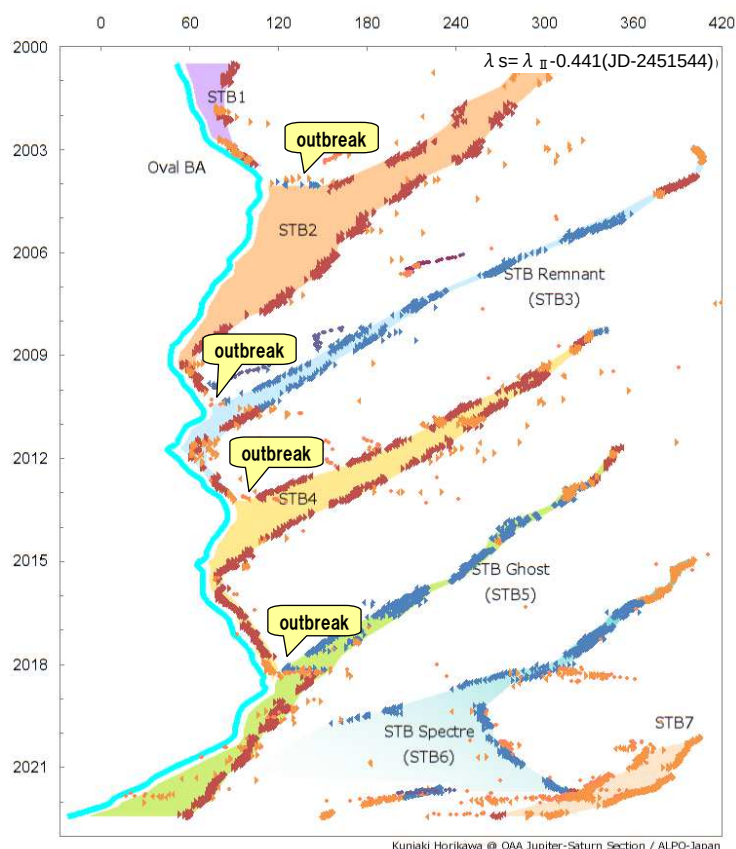




大赤斑の経度変化／サイズ／90日振動



STBの活動サイクル



STBの活動サイクル

1. 小暗斑として形成
2. STBの暗部に成長（青いフィラメント領域になる場合もある）
3. BAIに衝突
4. 崩壊・短縮（南北組織に沿って暗斑群を放出）
5. 短縮・消失（次世代のSTBが接近・衝突）

- 淡化したSTBには、ベルトに相当する低気圧的領域（セグメント）が3つ存在する傾向がある。
- セグメントはBA前方で暗斑として形成され、伸長してベルトの断片、または青いフィラメント領域となる。
- セグメントは前進してBAに衝突し、激しい攪乱活動（STB outbreak）を引き起こす。フィラメント領域は濃化してベルト化する。BAは加速する。
- BA後部のセグメントは、前後に暗斑群を放出しながら縮小、消失する。
- 2000年以降、セグメントは6つ、BAとの衝突は4回観測されている。
- 現在復活中のSTBは、上記のパターンとは異なる？

SSTBの高気圧的白斑 (AWO)

